

## 1999年 四季折々 Mutsu

### 1. 1999年 5月 from M. Nakanishi 1995. 5. 8.



ご無沙汰していますが、元気に過ごしています。桜の花が咲いている間にホームページの改訂をしようと思ってる間に若葉の5月の連休になってしまいました。

大阪弥生文化博物館で「渡来人登場」展が開催され、訪れたのを機会に気になっていた「土井ヶ浜弥生人」のルーツの資料を少しまとめました。

また、民族博物館の江口先生に誘っていただき、『江口サロン「南太平洋の文化遺産」展を見る会』にも出かけました。

娘が米子へ嫁ぎ、「たたら」の郷 奥出雲が近くなりました。

この5月連休には家内と二人、奥美濃-五箇山-砺波平野を結び、水芭蕉・チューリップそして彫刻の街「井波」を10年ぶりに訪問しました。

そのうちにまとめてお話します。色々の話聞かせてください。

1999. 5. 8. 神戸にて Mutsu



1995. 5. 8. 京都 法然院にて

### 2. 6月 from M. Nakanishi 1999. 6. 7.

6月3日突然美祢の仲間が急死したとの訃報。毎年6月の初めミヤマキリシマで桃色に染まった久住山登山に誘ってくれた仲間である。今年も誘いの電話を待っている時の突然の訃報で、ただ呆然とするのみです。どうか美祢の仲間に残された人達を励まし助けてあげてほしい。

6月になり、梅雨に入りました。美祢では畦道や小川で蛍が飛びはじめている事でしょう。



九九州 久住山のミヤマキリシマ

5月にはペナンにも行ってきました。関西空港でシンガポールへ行く山岡氏と約10年振りに出会いました。

また、鳥取へいった宮本君にも神戸でバッタリ。

どちらも海外を元気に飛びまわっている様子に元気づけられました。海外で頑張っている仲間も今が正念場。前を向いて頑張ってもらいたい。

この5月連休に家内と二人、奥美濃-五箇山-砺波平野を結び、水芭蕉・チューリップそして彫刻の街「井波」を10年ぶりに訪問しました。やっと整理ができました。

また、5月末、美祢来福台を訪問し、お向かいの黒田さん宅のガーデニングにビックリ。

チビちゃん達にも出会い久しぶりの美祢弁に家内と二人感激しました。

4月に奥出雲金屋子神社を訪れ、また、花園大学の丸山先生から、『たたら』と日本昔話の関連など聞き、『おもしろそう』と思っていた矢先に、柴田弘武氏の本を読むとスサノウ伝説ばかりでなく、吉備の『桃太郎』も『花咲か爺さん』『足柄山の金太郎』も丹後の『羽衣伝説』もみんな『たたら』を日本に伝えた渡来人集団と大和との抗争と考えられると。

誠に面白くなってきたと感じています。

前々から気になっていた岡山吉備の鬼ヶ岳・鬼ヶ城に行ってきました。

眼下に吉備平野が広がり面白かったです。また、ちょっとずつまとめます。

先週 パリでアジア難民の救済活動をしておられる謝司祭を神戸にお招きして、お話をうかがいました。神戸の震災も風化しつつあり、また、世界では知らない色々な事が起こっています。

本当にうかうかしていると取り残されてしまいそう。

こちらの方も今年是非アクションを起こしたい。

私の教会の震災前後の写真等を送る約束したのでこれを第一歩としたい。

本当にめまぐるしく変化する時代 しっかりと前向いて歩かねば・・・

まあ、元気にやっています、また、メールください

1999. 6. 6. 夜 神戸自宅にて

Mutsu

### 3. 1999年 7月 from M. Nakanishi

1999. 7. 7.

梅雨の集中豪雨で各地で被害が出ていますが、いかがでしょうか・・・

梅雨の合間の夜 『サボテン』の美しい花が咲きました。

美祢でいつもAさんが歌っていた『サボテンの花』を思わず口ずさみました。

鉄鋼本社へ帰って6ヶ月の充電期間を貰っていましたが、7月から古巣の『溶接』に戻り、溶接材料の会社で新たな任務に付くことが出来ました。

久しぶりに工場ラインの現場へ出かけ、『技術屋は現場にいないとダメだなあ・・・』とつくづく感じました。



サボテンの花

厳しい産業環境の中で、技術開発のリーダーとしての重責を担うことになり、新しい仲間を得てまた一から出直しです。

『見たり 聞いたり 試したり』 みんなに教えてもらいながら、ガンバルつもりです。  
7月の半ばには、仕事の関係で千葉県柏市に赴任し、久しぶりに関東で単身赴任の生活です。まずは新しい仲間と一緒に仕事を軌道にのせることが先決ですが、色々な人とまた会える事を楽しみにしています。今までと同様にご指導 ご教示のほどよろしくお願いします。

ちょっと ホームページに手を入れるのも遅れると思いますが、是非今まで同様メールください。

● 『鉄道員 ぼっぼや』の映画

今日 梅雨の合間に家内と二人で『鉄道員 ぼっぼや』の映画を見に行きました。

浅田次郎の短編小説を読んだ時から楽しみにしていた映画です。

良かったですよ。・・・・・・・・

雪の原野を雪を飛ばしながら走る列車と古い停車場 そして 静かに流れるテネシーワルツをバックに、定年まぎわのたった一人で駅を守る老駅長。

鉄道一筋の高倉健が心配して電話をかけてきた若い後継の鉄道マンに

『自分の生き方に悔いなし。

自分を乗り越えてしっかり今やるべき事をしろ』

と激励する場面はとても印象的でした。

高倉健さん自身の鎮魂歌とも言われていますが テネシーワルツと最後に流れるこの映画の主題歌も実にきれいでした。

『CDをまた、娘に手にいれてもらおう』と家内と話しています。

7月は 新たな第一歩 皆にまけないよう前向いて頑張ります。 今後ともよろしく

1999. 7. 3. 夜 神戸 自宅にて Mutsu

#### 4. 1999年 10月 from M. Nakanishi 1999.10.1.



1999.9. 上旬 メガフロートの上で

夏もあっという間に過ぎ、秋になってしまいましたが、元気にお過ごしのことと思います。

ホームズの改定が遅れ申し訳ありません。

まだまだ 蒸し暑い日が続いています。関東に来て約2ヶ月。

柏の生活も軌道に乗り、新しい生活を楽しんでいます。

9月初めには横須賀の造船所を訪ね、造船所と横須賀沖の『メガフロート』に乗せてもらいました。

『メガフロート』は溶接屋の夢。長さ1000m x 幅約100m 海に浮かぶ空港そのもの。

その大きさに圧倒されました。

私の会社の溶接材料も大量に使われました。十数年振りの造船所。随分変わりましたが、台車に載ったブロックが動き、クレーンがそして バチバチと音をたてる溶接の火花 久しぶりの活気と人の匂いに

うれしくなりました。

『我々も頑張らねば・・・』の気持ちになった一日でした。

成熟産業の中で、技術屋にとって 非常に厳しく  
受難の時代。

新しい展開を目指し 皆を引っ張って行かねばならぬ責任強く感じています、今までと同様ただ  
『ひたむきに - OPENNESS & FRANKNESS- 』に立ち向かって行こうと思います。

私には『それしかない。』

関東へ来て まず 利根川の源流 谷川岳に登りました。また、関東平野を一望できる筑波山にも。

9 月末には念願の青森三内丸山遺跡に出かけます。

7 月にお話した神戸震災を受けた月見山地区の人たちとの交流を目的とした民族博物館江口先生の

『西アフリカのむかしばなし』の会も多くの人に来ていただき非常に良い交流の場となりました。



谷川岳 と 上越線 清水トンネル内 土合駅

柏での単身赴任の生活が続きますが休日にはwalking を楽しんでいます。

時々神戸にも帰っていますが元気にやっています。

一度 柏・神戸いずれでもお訪ねください。

1999. 10. 1. 柏にて Mutsu

## 5. 1999年11月 from M. Nakanishi 1999.11.5.

あっという間に11月が来て、秋深く 冬の足音も聞こえています。  
今年は暖かく夏姿ですごしていましたが、やっと紅葉も始まり、秋らしくなって来たところですが。  
不景気で本当にエンジニア・製造業受難の時代。  
若い人が必死でガンバッテいます。  
「早く思いきったことができる時代になれば・・・」と一緒にやっています。

1999.9.23-26. 「北のまほろば」津軽 walk より



津軽半島 十三湊・岩木山・木造亀ヶ岡縄文遺跡



三内丸山縄文遺跡 1999.9.24.

### ● 東海村 JCO で臨界事故に思う

東海村 JCO で臨界事故が起こり、直接作業をしていた人が被爆・死亡し、また 多くの人が避難する痛ましい事故となりました。

内容はあまりにも粗末ですが、生産に携わるエンジニアとして、立場を自分の生産現場に置きかえると原子力の厳しさを割り引く分 同じようなことを起こしかねないと思っています。

結果として 事故が起こったため、まわりから袋叩きにあっていますが、うまく行けば「結果オーライ」の価値観として日本では根強いものがあると思う。

技術屋として本当にボロカスに言われている当事者は本当に無茶苦茶をしたのでしょうか？

昨今の製造業・エンジニア受難の時代を絵に描いたような話です。

原子力を軽視し、生産プロセスの思想の無さが引き起こした事に弁明の余地はないが、なにも知らされず、忠実に合理追求をやった結果がこれ。

会社・エンジニアにアセスメントの考え方がきっちりなく、会社の中に【生産哲学・ステイタス】の無さが、歯止めがかからなかった原因でしょう。

日本の会社の経営陣にどれだけアセスメントをきっちり考えているか 常々疑問に思うことが多い昨今

です。

不景気の中 一番切り捨てられやすい 『物作りの思想と論理』。

今一番必要なことと感じています。つつい愚痴になりましたが・・・・・・・・

### ● 『北のまほろば』 津軽 country walk



【『縄文の道 津軽七里長浜』 十三湖から北海道遠望

津軽富士『岩木山』から】

民族博物館の江口先生から、青森三内丸山遺跡で「月見の宴」があるとのお誘いを受け、9月23日夜～26日念願の津軽 三内丸山遺跡・岩木山を訪ねました。

また 津軽半島の西側海岸沿いの「縄文の道 木造町-車力町-十三湊」を一人歩いて来ました。

30年振りの縄文の道でした。

津軽では太宰治の小説に象徴される津軽の暗さは吹っ飛び、新しい流れが根付いています。

「地方の時代」「新人類 ・若者の時代」と言われて久しく、閉塞した都会では感じられない胎動をもろに感じました。

「たたら」のルーツに端を発した walking が、山口土井が浜弥生遺跡で日本人のルーツにつながり、今青森訪問で縄文人にまで及び、フィールドがまた広がりました。

まあ、休日のお遊びかもしれませんが、「今 青森が面白い。」

先日三内丸山縄文発信の会の東京での集まりがあり、東京科学博物館の馬場先生の「縄文人と弥生人の顔」の話を聞きましたが、「縄文顔と弥生の顔」

このまま行くと将来は皆 「虫歯が多くあごの尖がった長面のショウユ顔」になってしまうのだそうです。

### ● 尾瀬の秋



1999. 10. 16. 尾瀬ヶ原

秋の尾瀬を見に 10月16日思いきって出かけました。

尾瀬は多くの人で華やかになりましたが、一人歩くと昔とおなじ。

日帰りで行けるようになったのがうれしい。

しかし昨今の環境問題考えると複雑です。秘境の桧枝岐。昔は神秘的ですが、もう これもおしまい。新しい道ができ、多くの人を訪れ、明るい村に。確実に世の中 動いています。

桧枝岐を夜6時過ぎ出発しても 東京には10時過ぎ。本当に近くなりました。

1999. 11. 5. Mutsu

## 6. 1999年12月 from M. Nakanishi 1999. 12. 1.

冬到来。寒くなってきましたがいかがお過ごしでしょうか。

美祢の仲間にとっては、本当に厳しい時、色々信じられない事が起こっていますが、どうか自分の行きざま、自分の判断大切にして 厳しい時代 この難局を乗り切ってください。



福島県原町市 砂鉄の浜 北泉海浜公園



千葉県柏市 若柴 千葉一野田を結ぶ国道16号線(柏社宅近傍)

【重戦車のような巨大トラックがひっきりなし 内陸部の重要幹線の凄さにビックリ】

- 11月24日 東京で日本溶接協会の50周年記念式典に参加しました。  
溶接から離れて約10年。どんな人に会えるか 全く異邦人になるか・・・心配しながら出かけましたが、色々な人に会うことが出来ました。  
本当に有りがたい事ですが、昔お世話になった諸先輩・一緒に仕事をした仲間などに声をかけていただき、この分野にやっと復帰できたという思いと時代の流れにいまさらながら、頑張らねば・・・と思っています。
- この記念式典の記念講演で慶応大学広中平蔵教授が「日本経済は復活できる」と題して講演されたのですが、日本経済復活のkeyのひとつとして、日本の「物作り技術」の重要性と自信を指摘され、かつ、このインターネット革命の時代の展開として「成功体験を捨て、新しい風に飛び込め」と指摘された。  
技術屋 受難の時代にあって 久しぶりに快適な気分で帰りました。
- 私の会社でも 今月 ISO9002 の FOLLOW UP 審査があり、私も責任者の一人として面接を受けましたが、無事完了。  
きっちりとした IDENTITY と言うか思想に基づいた考え方の重要性に今更ながら感じ入りました。

即物的な対応、その場その場の判断の個別判断に埋没しがちな中、考えさせられる課題です。

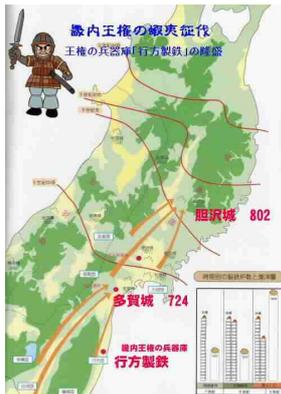
- 福島県原町市 あの「相馬馬追い祭り」の町ですが、8世紀 坂上田村麻呂の蝦夷征伐と関連した製鉄遺跡「原町市 真吹郷 金沢 行方製鉄遺跡」を訪ねました。

そこには東北電力の最新の石炭専焼の原町発電所が建っていましたが、海岸では砂鉄と白砂が色々な模様を描き、楽しい一日でした。

わたしにとっては 福島県での新しい「たたら」遺跡との出会いでした。

同時に縄文の流れと弥生の流れの遭遇

日本の誕生と統一 に重要な役割を果たした「IRON ROAD」がここにもありました。



私にとっては激動の一年。色々なことがありましたが、今は前向いて ACTION あるのみ。  
先週日曜日 柏の聖アンデレ教会のバザーに参加。ここでも、やる事聞く事新しいことばかり。  
楽しい一日でした。

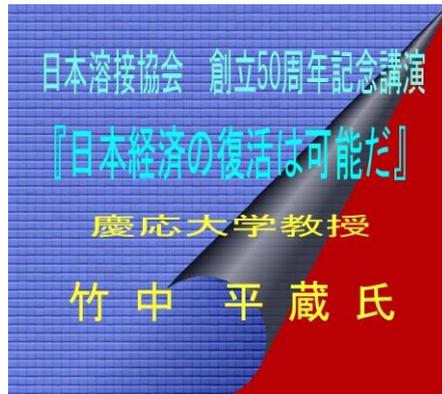
竹中平蔵教授の言う「成功体験を捨て 新しい風にとびこめ」なにか元気が出て来ます。  
先を信じて 皆 頑張りましょう。 健康と家族は大切に

1999.12.1. 柏にて Mutsu



福島県原町 「行方製鉄遺跡」と海岸に集積した砂鉄の描く文様

慶応大教授 竹中平蔵氏 「日本経済の復活は可能だ」



日本溶接協会の設立 50 周年の記念講演として、現小渕政権のブレンであり、若手経済学者として活躍中の慶応大学教授 竹中平蔵氏の講演を聞いた。

今 「日本経済で何が起きているか?」を基調に「物作り技術」の有る限り、「日本経済の復活は可能だ」と実に弁舌さわやか、具体的事象ベースに講演された。若手経済学者の旗頭としてのアクティブさ。技術者 苦難の時代にあって、物作りをするものにとって久しぶりに痛快的講演であった。その要旨をまとめ、書き記す。

## 1. 日本の現状の総括

「釜の中のゆで蛙」 のたとえ

熱湯に入れられた蛙は熱くてビックリして飛び出すが、  
水から徐々にゆでられた蛙は気づかず、そのまま真っ赤にゆであがる。

日本の GEP は 400 万円/年・人に達し、バブル絶頂期の 1990 年よりも 10%も高くその総額は 500 兆円にも達している。(20 兆円の公共投資、60 兆円の公的資金の銀行への投入などが功を奏して経済は上向き。) 同時にこの 10 年間で 1200 兆円がバブル崩壊で消えた。そしてその後 9 年間この付けを先送りしてきた。この事が閉塞感となり経済回復基調にのれない。

アジアではこの間 経済の実力伴わず、先送りできず、バブル崩壊で生活水準を切り下げた。(韓国では約 20%の切り下げ) 一方 日本では 10%も生活水準が上がり、かつ 9 年間も引き伸ばし出来た強い経済力のあること認識すべきである。また、この実力が日本の「物作り」によって支えられているのも事実であり、日本の終身雇用制が果たしてきた役割も大きい。

潜在的日本の成長率は約 2%にも達する事が多くの学者でいわれている。

問題は「この成長率に見合った成長をとげる経済状態に、何時 回復するか?…」である。

この 10 年間の日本の中産階層の変化にも着目しておかねばならぬ。日本は貧富の差がきわめて小さい「平等社会で中産階層が 90%を占める」と言われるが、この十年間で、情報革命の波に乗って富を得た人の増大により、貧富の差は増大し、アメリカ並となり、ドイツ・イギリスを抜いている。

貧富の差が増大したと言っても、この間、生活感から見ても、国民の生活水準は向上し、貧者が増えたわけでもない。成長によってもたらされた富が努力したのものにもたらされていると考えるのが妥当である。「アメリカンドリームを実現できる機会平等の競争社会」への変質のきざしが見える。

この競争によってのみ成長は得られる。この成長をアメリカの場合で見ると 1997 年 デジタルエコノミーと呼ばれるインターネット・情報革命にまつわるビジネス分野の成長は 35%に達し、今も成長を続けている。これに呼応して アメリカの株価は成長を続けながら、さらに新たな成長の局面を迎えている。このインターネット革命の凄さを物語る数字である。

今 日本においては このインターネット革命に乗ったビジネスの成長と長年にわたる付けの整理の両局面を推進せねばならぬ状況であり、この負のリストラと攻めのリストラの両方が動いている。

最近では この負のリストラ調整の見とおしがつき、今後のビジネス展開を見据えたプラスのリストラがめだって見えるようになってきた。

今まさに産業全体にアイデアで勝負する実力のビジネスチャンスを迎えている。

この調整局面は 2001 年に次の理由により、2001 年 4 月頃までに一気に終結し、その後、勝者による新しい成長の時代を迎えるであろう。

1. ペイオフの開始	実力主義の到来と弱小銀行の淘汰 (小型・信用不安銀行は生き残れない。)
2. 国際会計年度導入	真の実力のある産業・会社競争 弱小の淘汰 (連結決算・時価評価)

今まさに 攻めのリストラ(前向きの調整)が金融・産業界で起こっている。そして それらの調整が完了する 2001 年以降に必ず成長の波に乗る。

今が変革のチャンスであり、攻めのリストラを制した者が生き残れる。

ただし、そのためには クリアせねばならぬ幾つかの条件があり、特にインターネット革命と「物作り」の実力は重要である。

## 2. 今後の日本経済成長の KEY WORD

### 今後の日本経済成長の KEY

- A. 平等社会の崩壊から機会平等へ 仕組みの変更
  - 1. 努力したものの価値 税制改革
  - 2. 競争のみが成長を生む 規制の緩和
- B. インターネット革命の導入とビジネスチャンスの到来
  - 1. 金融ビッグバン・経営ビックバン から 流通・工場ライン 産業社会活動すべての ビッグバンへ
  - 2. 利益享受型から提案推進型へ
    - ・対応は今… フィンランド ノキア 携帯端末の実践例
- C. 技術・技術風土の革新と技術荒廃の認識
  - 「成功体験を拭い去り、新しい風に飛び込む姿勢」
- D. 大量生産・大量消費型から環境配慮リサイクル型へ

1999 年 11 月 24 日東京 プリンスホテルでの講演から聴取 採録